

【目標】

- ・ArCS IIで明らかになった課題があって、それを解決するためにこういった観測の強化が必要とか、日本のこういうものが**必要**といったストーリーにすると分かりやすいのではないのか。
- ・社会課題の解決に向けて社会課題解決型研究を実施する際は、対象を北極圏に特化した社会影響評価を行うとしたほうが、目標が明確になるのではないか。
- ・国際連携の中で観測を行い、新たな知見は得られると思うが、「空白域の解消」が観測研究の第一の目的であるというのは違和感がある。
- ・ArCS IIには、中央北極海漁業協定や北極海航路への貢献というがあるので、次期プロジェクトでも例えば水産庁や国交省の人たち、また現業の人たちに役に立つ情報を提供することを明確な目標として入れておくべきではないか。

【国際連携】

- ・観測空白域のデータを得るためには沿岸国の領域の中に入っていくことになる。北極圏国との人脈の形成や連携を進めていかないと北極研究を前に進めていけないのではないか。
- ・ArCS II 自体も海外から高い評価を得ており、首脳会談等でも北極研究の重要性に言及される等2国間の協力とか外交的な場面でも非常に期待されていることを国内で理解してもらえるようしっかり記載する必要があるのではないか。
- ・G7でも北極域研究は議論に上がっており、外交面での動きと連動した努力も含めて国際的にしっかり協力してやっていく必要がある。